

令和 6 年度 国臨協関信支部症例検討会

解説

診断

自己免疫性肝炎
(Autoimmune hepatitis ; AIH)

自己免疫性肝炎 (Autoimmune hepatitis ; AIH)

概要

- 自己免疫機序が原因となって発症する慢性肝炎
- 発症ピークは50歳代で、90%が女性
- 慢性甲状腺炎、シェーグレン症候群、関節リウマチなどの自己免疫疾患を合併する
- ウイルス感染や薬剤性肝障害に引き続いて発症する症例が報告されている
- 日本人では70%の症例でHLA-DR4陽性

症状

- ・肝炎による全身倦怠感、易疲労感、黄疸の他、関節痛、発熱、発疹などの全身症状を伴う

治療

- ・ステロイドによる免疫抑制療法その他、軽症例にはウルソデオキシコール酸が有効なこともある

予後

- ・進行すると肝硬変を来し、予後不良である

診断

- AST・ALTの上昇
- γ グロブリンやIgG値の上昇
- 自己抗体の出現
 - I型：抗核抗体または抗平滑筋抗体陽性
 - II型：肝腎ミクロゾーム1抗体陽性

（日本ではほとんどが I型）
- 肝生検

自己免疫性肝炎(AIH)診療ガイドライン

< 診断基準 >

1. 抗核抗体陽性あるいは抗平滑筋抗体陽性
 2. IgG 高値 (> 基準上限値 1.1 倍)
 3. 組織学的に interface hepatitis や形質細胞浸潤がみられる
 4. 副腎皮質ステロイドが著効する
 5. 他の原因による肝障害が否定される
- 上記項目で、1～4 のうち 3 項目以上を認め、5 を満たすもの。

< 重症度判定 >

臨床所見：①肝性脳症あり②肝萎縮あり

臨床検査所見：①AST、ALT > 200U/l②T-bil > 5mg/dl③PT-INR $\geq$ 1.3

症例

【患者情報】

91歳 女性 137cm 60kg

【既往歴】

甲状腺機能低下症、狭心症、高脂血症

【処方薬】

チラージンS錠

リピトール錠

ニトロールRカプセル

モーラステープ

	－302病日	－16病日	1病日	10病日	単位
AST(GOT)	71	↑ ↑ 604	↓ 342	66	U/I
ALT(GPT)	49	↑ ↑ 353	↓ 228	43	U/I
LD(IFCC)	238	↑ ↑ 424	454	358	U/I

	1 病日	単位
IgG	2290	mg/dl
PIVKA- II	12	MAU/MI
AFP	5.6	ng/ml
HBs抗原	(－)	
HCV抗体	(－)	

} 他の要因の否定

自己免疫性肝炎

	－ 302病日	－ 16病日	1病日	10病日	単位
ALP(IFCC)	117	234	212	↓ 94	U/I
γ-GT	190	443	↓ 233	76	U/I
T-BIL	0.67	↑ ↑ 3.38	↑ ↑ 15.4	17.2	mg/dl
D-BIL			12	13.9	mg/dl
I-BIL			3.4	3.3	mg/dl
尿ウロビリノーゲン				+-	
尿ビリルビン				2+	
血中アンモニア			42	↑ ↑ 148	μg/dl

	1 病日	単位
ヒアルロン酸	9010	ng/ml
IVコラーゲン	59.3	ng/ml

} 肝線維化（高度）

肝硬変

	1病日	単位
総蛋白	5.8	g/dl
アルブミン	2.3	g/dl
T-CHO	88	mg/dl

	1病日	2病日	5病日	10病日	単位
APTT	77.8	73.4	↑ ↑ 93.6	測定不能	秒
PT	25	23	23.8	↑ ↑ 31.7	秒
Fib	57	66	122	測定不能	mg/dl
Plt	76	56	66	53	$\times 10^3/\mu\text{l}$

肝合成障害
(蛋白、脂質、凝固因子)

尿定性（2病日）	
尿色調	黄褐色
尿混濁	1+
尿比重	1.023
尿PH	5.5
尿蛋白	20
尿糖	-
尿中ケトン体	-
尿潜血	-
ウビリノーゲン	+-
尿ビリルビン	2+
亜硝酸塩	-
尿白血球	1+

	-16病日	1 病日	単位
UA	6.4		mg/dl
BUN	15.4	31.2	mg/dl
CRE	0.99	↑ ↑ 2.11	mg/dl

尿沈渣（2病日）	
尿赤血球	10-19/H
白血球	30-49/H
扁平上皮	1-4/H
細菌	3+

急性腎不全（腎前性＞腎性）
尿路感染症

	1病日	10病日	単位
RBC	3.82	3.69	$\times 10^6/\mu\text{l}$
Hb	11.6	11.3	g/dl
Hct	33.1	31	%
MCV	86.6	84	fl
MCH	30.4	30.6	pg
MCHC	35	36.5	g/dl
有核赤血球	0.1		

軽度貧血（正球性）
炎症（中等度）

	1病日	10病日	単位
WBC	7.7	↑ ↑ 14.4	$\times 10^3/\mu\text{l}$
血液像			
Neutro	90.8		%
Stab		0	%
Seg		89	%
Lymph	6.5	7	%
Mono	1.8	0	%
Eosino	0.5	1	%
Baso	0.4	0	%
Myelo		1	
Meta-Mye		2	
幼若顆粒球		+	
CRP定量	4.2	1.39	mg/dl

自己免疫性肝炎

IgG

肝硬変

門脈圧亢進
AST,ALT,LD 肝細胞傷害
TP,Alb,T-cho 蛋白・脂質合成障害
凝固因子合成障害
T-bil,NH₃ 代謝障害
γ-GT,ALP,T-bil,D-bil 胆汁うっ滞
脾機能亢進

循環血漿量低下

急性腎不全

CRE,BUN

凝固異常 PT,APTT,Fbg,Plt

消化管出血

BUN

軽度貧血

RBC,Hb

追加検査

自己抗体・画像検査・病理検査

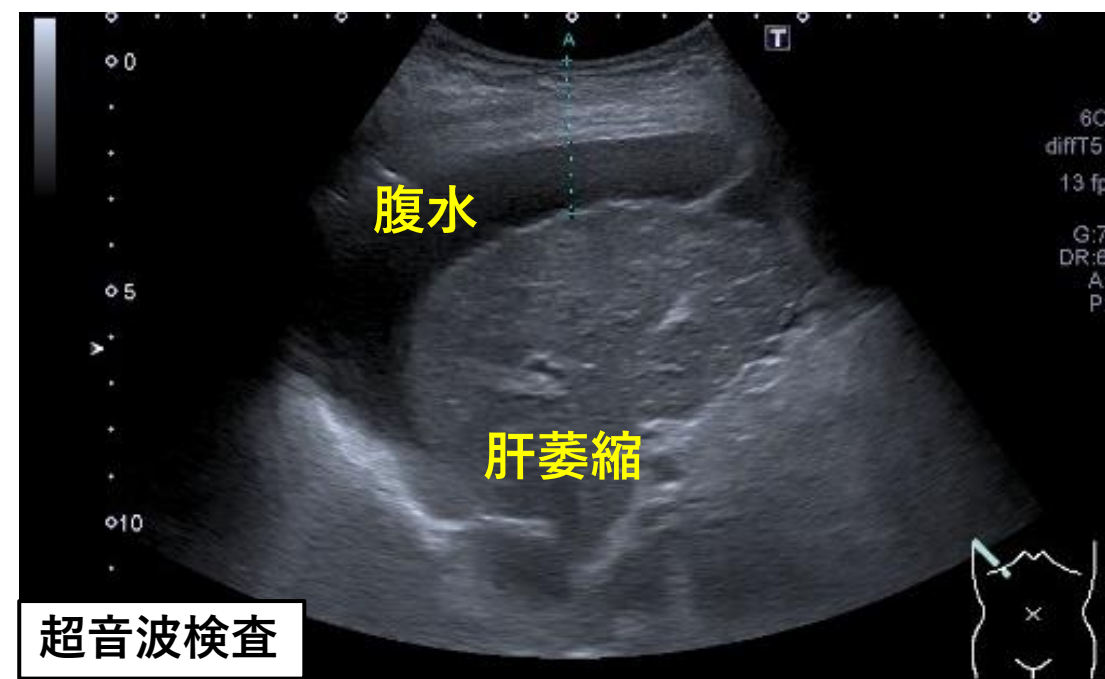
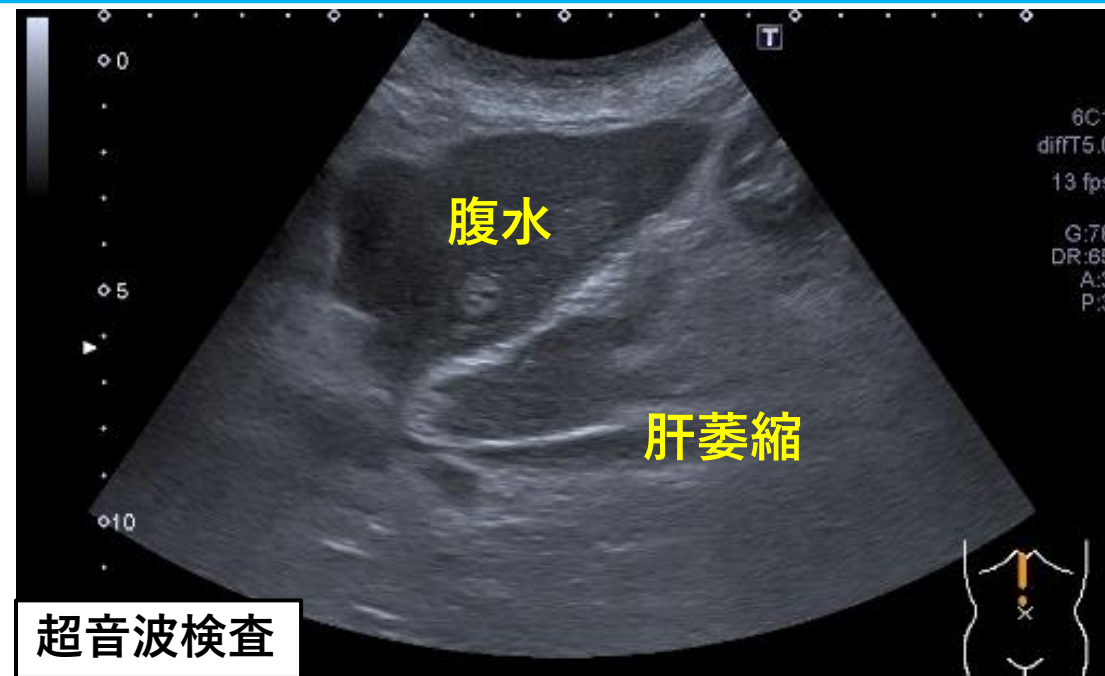
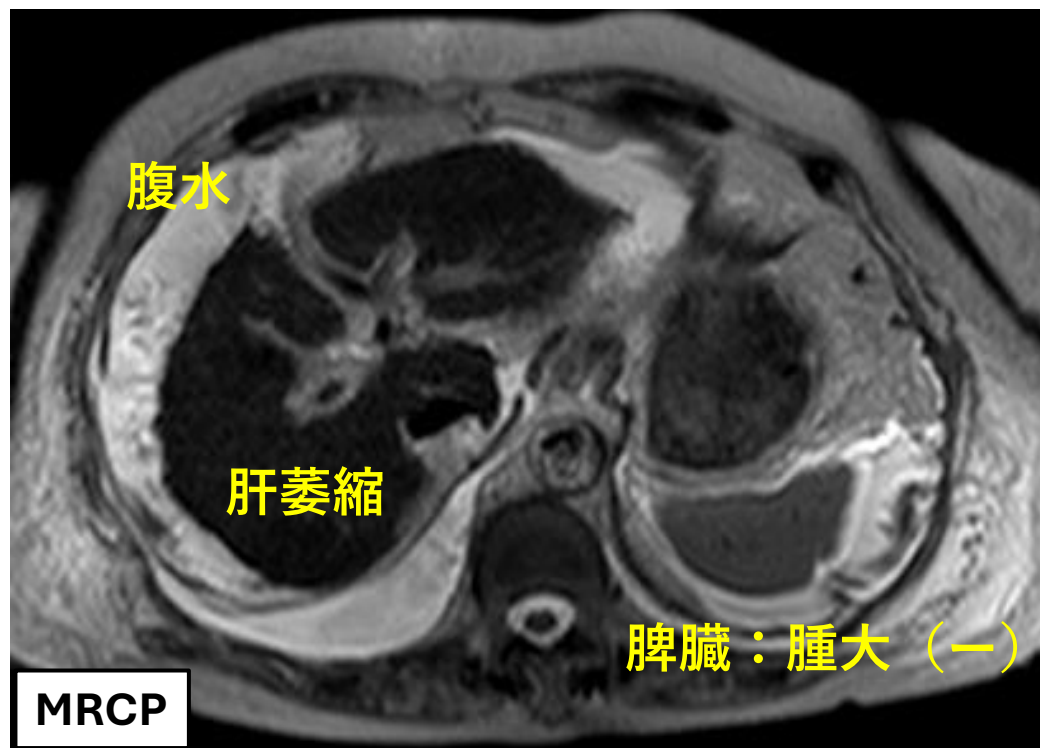
自己抗体

- 抗核抗体：陽性
 - Homogeneous(均質型)：40倍
 - Speckled(斑紋型)：40倍
- 抗平滑筋抗体：陰性

画像検査

肝臓：萎縮（＋）

腹水：（＋）



病理検査

- 経静脈的肝生検：組織採取できず
- 病理解剖時の肝臓摘出検体：
interface hepatitis、形質細胞浸潤（＋）

臨床経過

- 甲状腺機能低下症などで内服加療中、採血で肝機能障害を認めたため、1病日に当院入院
- 2病日からPSLを開始し、その間FFP投与なども行われた
- 5病日で抗菌薬が開始され、PSLは漸減
- 全身状態悪化により16病日に永眠され、病理解剖が実施された

●ALT(U/I)

抗菌薬開始

PSL 30mg 20mg 15mg

■PT(秒)

■APTT(秒)

400

350

300

250

200

150

100

50

0

市販薬内服

入院

FFP2U/day

▲T-bil

▲T-bil(mg/dl)

20

0

永眠

Day

-302

-16

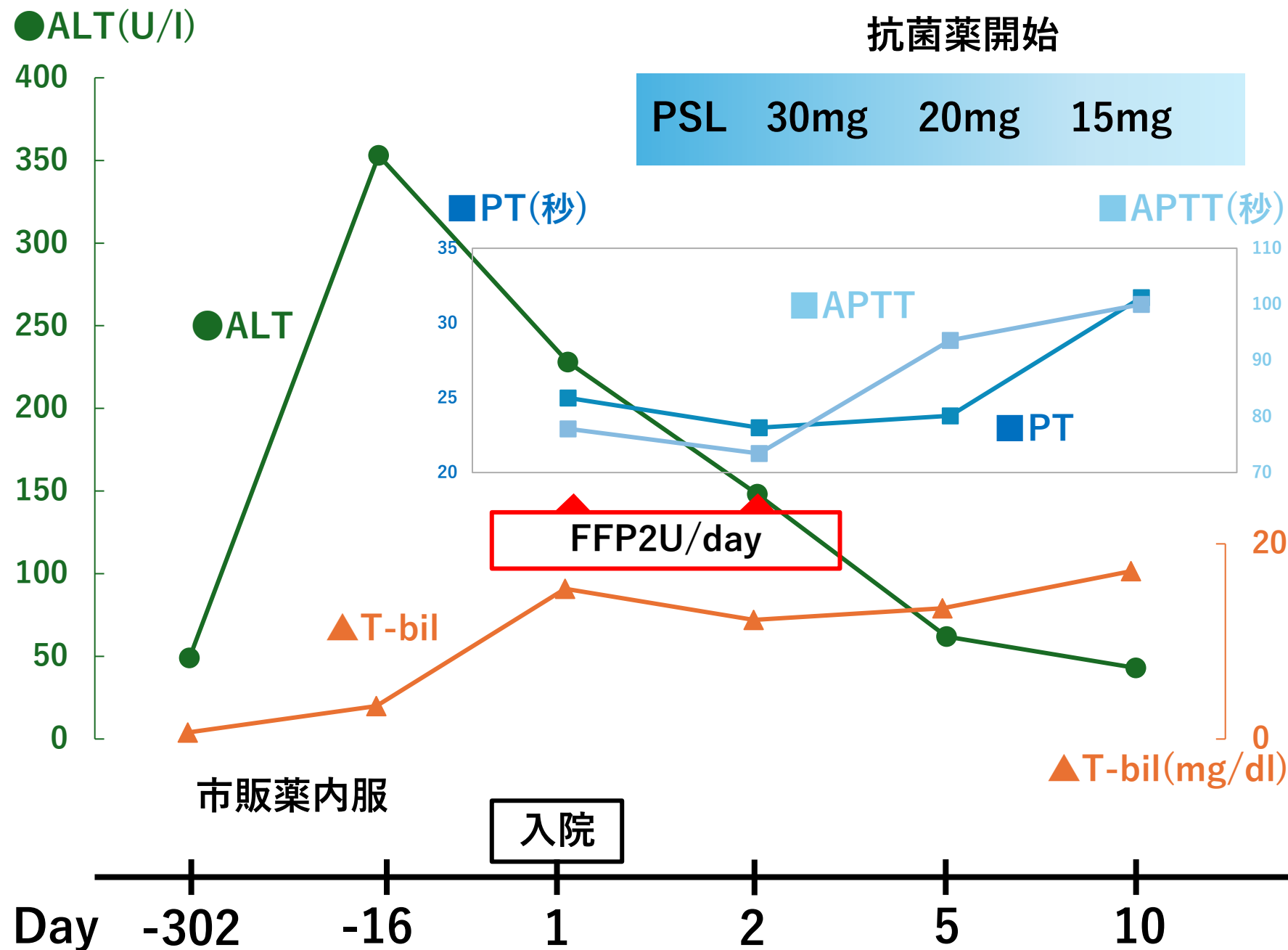
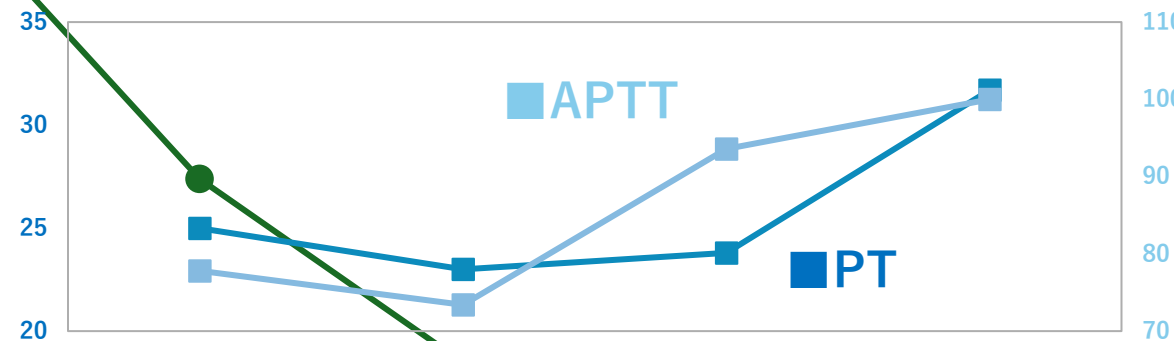
1

2

5

10

16

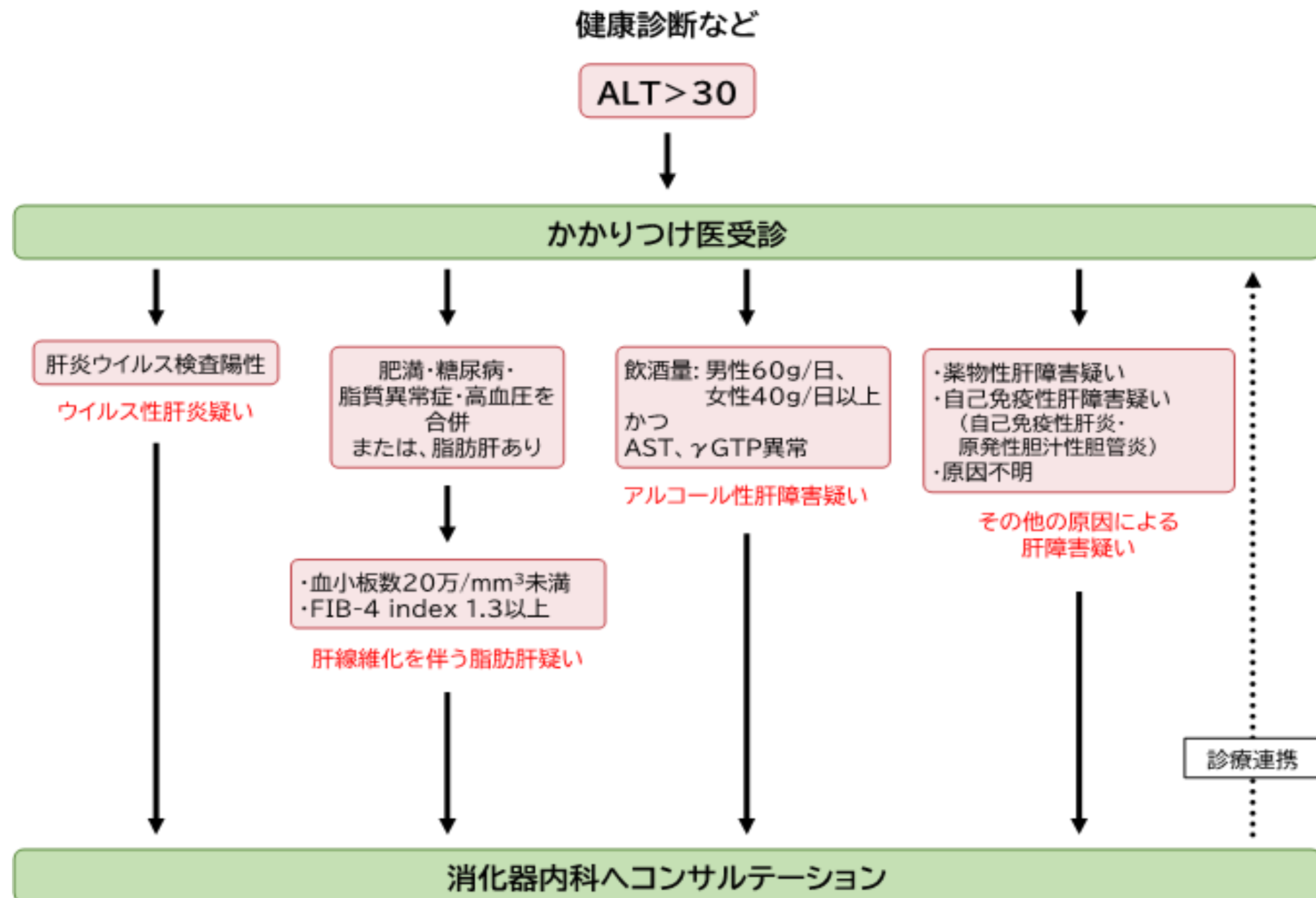


病理解剖所見

まとめ

- 自己免疫性肝炎の進行により生じた肝硬変により種々の病態を来し、短い経過（約1か月）で永眠された症例
- 慢性肝臓病（CLD）が疑われる場合は、精査加療し、肝硬変への進行を防ぐことが大切である





ご清聴ありがとうございました